



(編集) 旭川医科大学病院  
広報誌編集委員会委員長  
廣川博之

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>

## 大学病院における臨床研究

病院長 石川 睦 男

大学病院の重要なミッションのひとつに研究があります。病院における研究なので、当然のことながら臨床研究がメインとなります。国立大学法人化に伴い、大学病院に対する経営的圧力、すなわち収益の向上が強く求められるため、研究機能の低下が危惧されています。そのため、国立大学協会の経営支援委員会の下に設けられた病院経営小専門委員会が実施した国立大学病院の経営問題に関するアンケートにおいても、病院の「研究機能の状況」に関する調査項目の設定が議論となっています。

さて、旭川医科大学病院の状況はどのようになっているのでしょうか。これを分析するために研究費の受け入れ状況について検討してみました。まず、医薬品等臨床研究受け入れ（いわゆる治験）は、治験と市販後調査で平成16年度8,800万円、平成17年度が8,500万円である。一方、受託研究のほとんどは病院で実施されており、共同研究と合わせると平成16年度は8,600万円、平成17年度が8,000万円で推移しています。どちらの研究費もやや減少傾向にあるのが危惧されます。さらに、厚生労働科学研究費補助金を見てみると、主任研究者と分担研究者を合わせ平成16、17年度とも7,000万円程度となっています。これらの研究費を合計すると、本院では、年間でおおよそ2億数千万円の規模で臨床研究が行なわれていることとなります。今回は、文部科学省ならびに日本学術振興会の科学研究費補助金については、調べていませんが、その中にも病院で実施される臨床研究が多く含まれていると思われます。

政府は、本年3月に科学技術基本法に基づく第三期（平成18年度～平成22年度）科学技術基本計画を

閣議決定しました。その戦略重点科学技術の要件の中で、ライフサイエンスの理念として研究成果を創薬や新規医療技術などに実用化するための橋渡しを掲げ、戦略重点科学技術として「臨床研究・臨床への橋渡し研究」が述べられています。

科学技術基本法の趣旨からも、私は、医学研究の最終的な目標は患者さんへの診断・治療に結びつくことであると考えています。本院においても、これらの臨床研究を通じてエビデンスに基づく医療（Evidence Based Medicine ;EBM）を患者さんに提供し、さらには、これらの研究がアウトプットとして New England Journal of Medicine, Lancet, JAMA など世界に向けて発信されることを期待したい。

平成16年8月19日、開設主体（国立大学法人、独立行政法人、市町村等）のいかに問わず、それぞれの病院の財政状況や運営状態を体系的、統一的に捉えるための施設会計の基準である病院会計準則が制定された。前述の研究費は、病院会計準則の勘定科目の受託検査・施設利用収益（医業収益）やその他の医業外収益（医業外収益）に該当するものと思われる。従って、診療や教育のために十分研究に時間を割けない医師達に、これらの研究費を財源として研究をサポートする事務職やコーディネーター、テクニシャン等を配置するなど、研究支援体制の整備が急務となっています。

## 国立大学法人旭川医科大学 役員名簿

(平成18年4月1日現在)

職名(業務担当)	氏名
学長	八 竹 直
理事(教育・研究及び厚生補導担当)	塩 野 寛
"(医療担当)	石 川 睦 男
"(総務・財務担当)	お 太 田 貢
"(非常勤)(社会貢献担当)	たけ なか ひて やす 泰

5人

監事(常勤)(業務監事)	おく の 野 あき まさ 正
"(非常勤)(会計監事)	まえ だ たか みち 道

2人

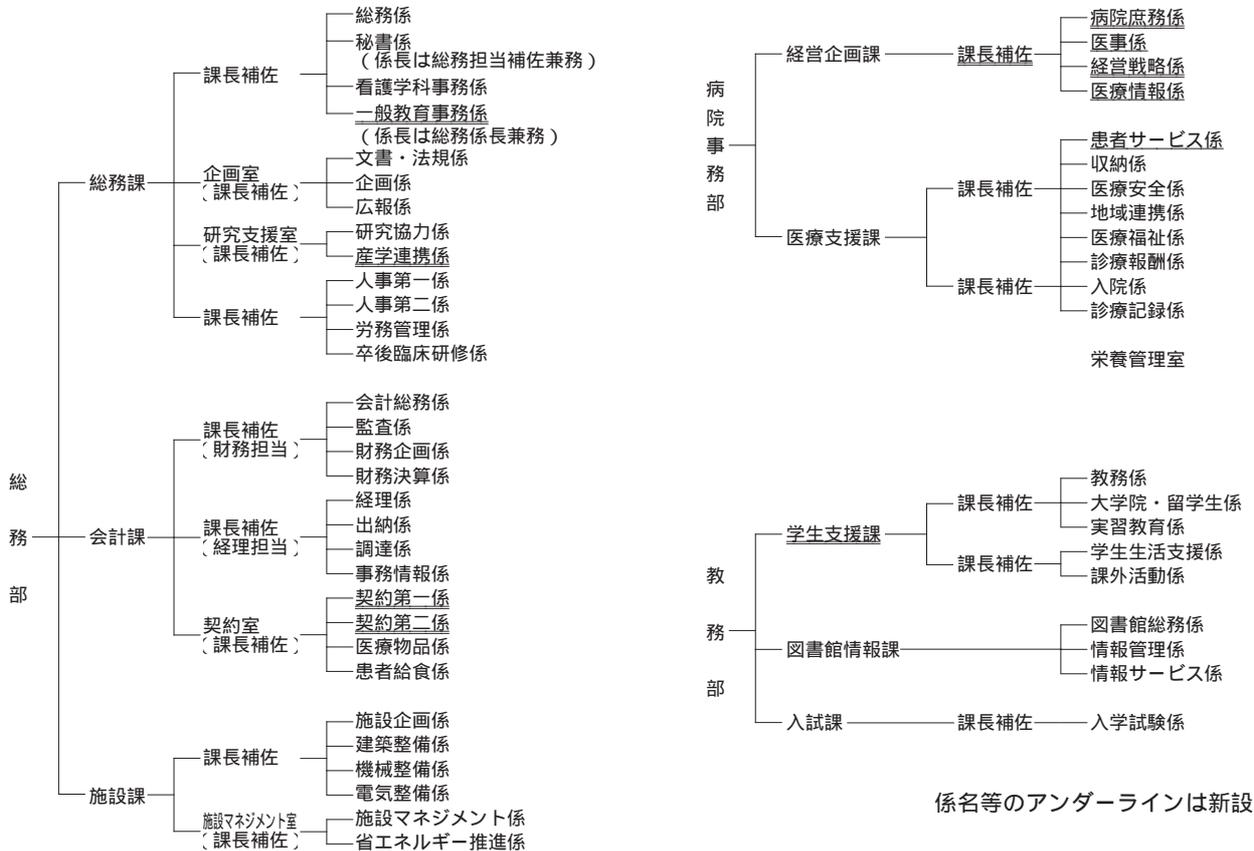
## 国立大学法人旭川医科大学 経営協議会委員名簿

(平成18年4月1日現在)

職名	氏名
学長	八 竹 直
理事(教育・研究及び厚生補導担当)	塩 野 寛
"(医療担当)	石 川 睦 男
"(総務・財務担当)	お 太 田 貢
附属図書館長	お がわ かつ ひろ 洋
学外委員(旭川商工会議所会頭)	たか まる おまむ 修
"(富川法律事務所 弁護士)	とみ かわ やす し 志
"(国立大学法人北海道教育大学理事)	ほん ま けん じ 二
"(旭川市医師会会長)	ます だ かず お 雄
"(旭川信用金庫会長)	まつ だ ただ お 男

10人

## ◆平成18年4月、事務組織を改編しました◆





## 就任挨拶

総務部長 川江 実

本年 4 月 1 日付けで総務部長に採用されました川江 実でございます。出身地は旭川市に程近い和寒町ですので、寒さには多少強いと思っておりましたが、前任地（東京都八王子市）との気温の差に慣れるまで多少の時間を要しました。赴任後ほぼ二ヶ月経った今ではすっかり体も順応し、爽やかな北海道の春を楽しんでおります。特に今年は 2 回桜を楽しむことができ大変うれしく思っております。

法人化後早くも 3 年目を迎えました。国から交付される運営費交付金が効率化係数（1%）や経営改善係数（2%）などの関係から年々縮小されるほか、各法人に課せられた総人件費抑制策、更には診療報酬改定による病院収入の減等大学及び病院を取り巻く環境には大変厳しいものがあります。そのような状況の中、中期目標・中期計画達成のための各種取

り組みを着実に実施するほか、各種の制度改革にも的確に対応しなければなりません。病院の再開発は平成 17 年度をもって完了しましたが、技術の進歩に対応した最新設備の導入や老朽化した設備の更新等が求められています。また今年度中には学内保育所を開設するため、早々にも各種手続きを開始する必要があると承知しております。

その他数多くの課題があると思いますが、皆様のご指導とご支援を頂きながら、旭川医科大学が更に発展するよう仕事をしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、病院関係の業務は初めてでもあり、用語に慣れ、理解するのに一苦労しております。理解できず失礼な場面も多々あるかと思いますが、その節はご容赦くださるよう重ねてお願いいたします。

## ▶ 看護の日・看護週間行事 ◀

### ふれあい看護体験

看護部総務委員

竹脇 恵子

私達の大先輩であるナイチンゲールが誕生した 5 月 12 日をはさんだ 1 週間で制定された「看護週間」も 16 年目を迎えました。全国的に各施設で様々な工夫を凝らしたイベントが行われますが、共通している行事は「ふれあい看護体験」です。これから看護職を目指している高校生はもちろんのこと、社会人も参加することがあります。今年も当病院では、地元の高校生 30 名が参加されました。体験が終わってから「いそがしくて大変そうだが、笑顔が素敵……」「一人ひとりその人に応じてお話をしているすごいと感じた……」等多くの感想をいただきました。今年は、その中で「看護の仕事は心です仕事だなと思いました。」と述べた人がいまして、とても新鮮な気持ちになりました。一人ひとりの感想を聞きなが

ら、私たちも一緒に「ふれあい看護体験」をしていて、元気をいただいていることに気づかされます。そして、この中から一人でも多くの高校生が看護の道に入ることを願った一日でもありました。

リラクゼーションコーナーでは、下肢マッサージの参加者が多く好評でした。また、写真展では夜間の看護師の働く姿がよくわかったと患者さんや、ふれあい看護体験の参加者から感想をいただきました。



## 角膜再生医療・培養角膜上皮移植について

眼組織再生医学講座 五十嵐 羊 羽

旭川医科大学眼科では従来から、角膜移植を積極的に行い、角膜疾患の治療において豊富な臨床実績を積み重ねてきました。しかし一方で、角膜移植をもってしても治療が困難である疾患も存在します。近年、失われた機能を再生させる新しい医療として再生医療が話題となっています。旭川医科大学では、眼組織の再生に関する研究、臨床応用を進めるため、



手術前



手術後一ヶ月

平成17年4月に寄附講座として眼組織再生医学講座を設立致しました。そして今回、難治性角膜疾患に対し、患者本人の細胞を培養して作製した上皮シートを用い、培養角膜上皮移植を行いました。無事成功することができました。この手術は、東京や関西の数施設で実施されているのみであり、東北以北では初めてとなります。

今回手術を行った症例は41歳の男性で、角膜上皮の幹細胞を化学外傷で失ったため、角膜が混濁してしまっただけです。このような症例に通常の角膜移植を行っても、健全な角膜上皮をつくることができず、結果的に混濁してしまいます。そこで、健全な反対の眼から、角膜上皮の幹細胞が存在する角膜輪部組織を数ミリ程度採取し、これを特殊な条件で培養、角膜上皮組織を再生し、病気の眼に移植したものです。手術は4月12日に行われ、手術後の上皮シートの生着は良好で、5月9日退院となりました。現在、角膜疾患の外科手術として角膜移植が行われますが、ドナー不足や手術後の拒絶反応等の問題があります。また、今回の症例のように通常の角膜移植では治療不可能な疾患もあります。一方、再生角膜はドナーを待つ必要が無く、患者本人の細胞を移植するため拒絶反応の心配もありません。当教室では今後も、これまで治療の難しかった眼表面疾患に対し、積極的に再生医療を行っていきたいと考えております。



## 口腔外科の歯科衛生士になって

Fresh Voice

歯科口腔外科 藤倉 弓子

今年度より、旭川医大病院歯科口腔外科にも歯科衛生士が配置されることとなり、4月から勤務させていただいております。私自身、大学病院で仕事をすることが初めてであり、しかも前任者が無いという状況でのこの1ヶ月余りは、「自分のポジションは何処なんだろう?」と考えながら、外来診療体制の流れをつかんでいくという毎日で、あっという間に過ぎていきました。その間、先生方や看護師さんから、使用器具の取り扱いや滅菌について教えていただき、感染防止対策の講演を受けるなかで、大学病院で働くという、自覚と責任を改めて感じるようになりました。

これまで一般開業医のもとで勤務し、たくさんの患者さんと接してきましたが、大学病院には状態の異なる患者さんがたくさんいらっしゃいます。口腔

外科手術をされた患者さん、放射線治療を受けておられる患者さん、幼いうちから入院して辛い治療を頑張っている子供さん、御自分では歯磨きが困難な患者さん、また、誤嚥性肺炎の予防など、歯科衛生士の基本的な業務内容は変わりませんが、患者さんそれぞれに応じた口腔ケアが大切だと思います。個々の患者さんに対して、歯科衛生士という立場から、私はどう関わっていったら良いのだろう、何が出来るだろうと今は考えています。

いろいろなアドバイスをくださる先生方、信頼のおけるスタッフのもと、歯科口腔外科の臨床の場での衛生士の役割を勉強し、視野を広げていきたいと思っておりますので、よろしくご指導下さいますようお願い致します。

## 【薬剤部】

## 副作用情報 (47)

## レッドマン (レッドネック) 症候群

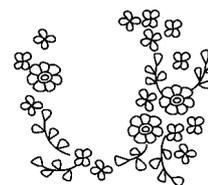
本院では、本年 2 月より、抗 MRSA 薬の使用状況の把握と起炎菌に対する適正使用を評価するために、使用届の入力システムが稼動している。また、TDM(治療的薬物濃度モニタリング)オーダーとも直結するようになっており、TDM を行うことによって、治療域濃度の確保及び副作用防止に努めている。

さて、抗 MRSA 薬の中でも使用頻度の高い塩酸バンコマイシン(VCM)の留意すべき副作用としては腎機能障害、聴覚障害(第 8 脳神経障害による)がある。これらの副作用は、VCM の血中濃度上昇に起因するものであり、TDM の施行により回避が可能である。

一方、血中濃度に関係しない副作用としてレッドマン(レッドネック)症候群が知られている。これは投与中に発現するアナフィラキシー様反応であ

り、VCM を比較的大量に速い速度で点滴静注した場合に発現しやすい。症状として、耳鳴り、かゆみ、呼吸困難、頻脈が現れ、顔、頸部、上体幹、背中及び腕に紅斑性の発疹や充血が生じる。ときに血圧低下をきたし、ショック状態に陥ることもあり死亡例の報告もある。この症状はヒスタミンの遊離に関連するものであり、発現した場合は抗ヒスタミン薬を中心に対症的に治療を行うことが多い。本症状の原因は投与速度であるため、点滴速度を下げて投与することで回避が可能である。具体的には点滴時間を 1 時間以上とすることが重要であり、本症が発症した患者では点滴時間をさらに長くすることで再発が防止できる。

また、VCM と同じグリコペプチド系に属するテイコプラニンにおいては、本症状の発現頻度は低く、点滴時間も 30 分以上と VCM に比べやや緩和されている。(薬品情報室 大滝 康一)



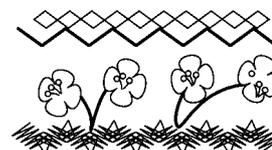
## 輸血・細胞療法部門発④

## 自己血・成分採血室オープン

本年 1 月、輸血部門の移転にともない自己血採血や成分採血を行う部屋が完成し、4 月 17 日から自己血・成分採血室として運用を開始しました。短い準備期間内に種々の備品を揃え、マニュアルを作成し、予約をオーダーリングに組み込み、薬剤の配置するなど、多くの方々にご協力いただいたことを、この場を借りてお礼申し上げます。また、看護部の特段のご配慮で、採血室を主たる業務場所とする看護師さん 1 名が配属されました。向野(むかひの)さんという看護師さんで、旭川赤十字血液センターで十数年間採血業務をされてきた方です。経験豊富な看護師さんが運用開始時から配属されていたため、ことのほか順調にスタートできました。業務開始後 1 ヶ月経った現在、自己血採血 16 件、末梢血幹細胞採取 2 件、白血球除去療法 10 件を行いました。トラブルは発生していません。部屋とスタッフのキャパシティには余力がありますので、院内各部署から

の積極的なご利用を期待しています。前号にも書きましたが、献血者数が減少しています。自己血のみで手術が可能な患者さんや、自己血を使用することで日赤血の使用を削減できる場合は、自己血輸血を考慮してください。

(臨床検査・輸血部 副部長 紀野 修一)



## 理学療法部だより 理学療法部に昇格して

理学療法士 朝野 裕一

お陰様で今年度におきまして、理学療法部へ昇格いたしました。お世話になりました病院長、病院事務部長を始めとした関係各位に感謝いたします。また、引き続き部長としての任を引き受けていただいた松野教授にお礼申し上げます。

さて、組織上は部へ昇格いたしました。機能面では多くの課題を残しての船出となりました。それは大きく分けて二つあります。一つは専任医師の枠が得られなかったことです。この点を改善しない限り、病院機能評価の次のステージはクリアできない

と思います。二つ目は、常勤の理学療法士を確保できなかったことです。現在非常勤の希望者を探しており、この夏までには決定する予定となっております。条件が厳しい以上、なかなか手も見つかりにくく、また定着して勤めることが難しいのが問題となります。

最後に、これらの二点から、我々の目指す方針を実現するのに組織機能上限界があることです。部への昇格に際し我々は、病棟急性期への対応（廃用症候群の予防）診察時から退院後までの外来フォロー 地域活動（保健・福祉・スポーツ活動を含む）への貢献の三点を方針として掲げました。これらを真に実現するためには、なお一層の自身の努力とともに、皆様のご理解（リハビリテーション一般への理解を含めた）ご協力をいただきたく、今後ともよろしくお願い申し上げます。

### 平成 17 年度 患者数等統計

区 分	外 来 患 者 数			一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	紹介率	入院患者延数	一日平均入院患者数	稼働率	前年度稼働率	平均在院日数 (一般病棟)
	初 診	再 診	延患者数								
1 月	1,308	22,614	23,922	1,259.1	66.94	54.97	16,081	518.7	86.17	87.19	19.50
2 月	1,266	22,620	23,886	1,194.3	66.49	57.90	15,474	552.6	91.80	92.83	19.97
3 月	1,523	26,670	28,193	1,281.5	69.22	54.63	16,897	545.1	90.54	88.37	18.94
計	4,097	71,904	76,001	1,245.0	67.55	55.83	48,452	538.8	89.50	89.46	19.47
累 計	16,299	286,568	302,867	1,241.3	64.29	56.47	196,813	539.2	89.57	87.02	20.19
同規模医科大学平均	17,389	220,993	238,382	977.0	79.58	52.54	190,529	522.0	86.01	85.73	21.29

稼働率は、承認病床数 (602床) により算定している。

(経営企画課)

### 編集後記

平成18年度 広報誌編集委員

～記事の掲載希望は、委員までお知らせください～

委員長	廣川 博之	経営企画部 教授
委員	田熊 直之	周産母子センター 助教授
委員	石子 智士	眼科 助教授
委員	古谷野 伸	小児科 助手
委員	武田 悟	検査部 副部長
委員	小川 聡	薬剤部 主任
委員	伊藤 廣美	看護部 副部長
委員	藤井 昇造	総務課 課長補佐
委員	社本 忍	経営企画課 課長補佐

### 時事ニュース

- 3 / 23 院内ボランティア感謝状授与式
- 4 / 8 ~ 9 外来棟移転作業
- 4 / 10 臓器別診療体制開始
- 4 / 26 院内感染対策委員会講演会
- 5 / 12 看護の日

